

# 日本家族看護学会 NEWS Letter



目次:

第10回国際家族看護学会を終えて	1
日本家族看護学会第18回学術集会を終えて	1
日本家族看護学会第19回学術集会のお知らせ	1
参加記	2・3

## 日本家族看護学会 第19回学術集会 のご案内

テーマ  
家族とレジリエンス

大会長  
上別府圭子  
(東京大学大学院)

会期  
2012年9月8日(土)  
9日(日)

会場  
学術総合センター(東京)

演題募集期間  
2012年3月1日(木)  
~5月7日(月)

## 第10回国際家族看護学会(10th International Family Nursing Conference)を終えて

広島大学大学院保健学研究科 森山美知子

東日本大震災、そして、原発事故で日本への入国者が激減する中、「日本を助けたい」と勇気をもって参加して下さった34カ国、300人余り(同伴した家族を含めると400人余り)の方々、そして、混乱した状況の中にありながらも参加して下さった被災地の方々、そして、学会を盛り上げて下さったすべての方々に深く感謝したい。今回は欲張ったプログラムで、参加者が分散し(そして、京都観光に出かけた方も多かったことから)、1会場の聴衆が少ないという、発表者には申し訳ないような状況もあったが、それでも、家族看護をディスカッションするために、世界中から仲間が集まり、旧交を温められたことは本当に良かった。

国際家族看護学会(IFNA)の存在は大きかった。企画から、発表、参加まで、彼らにどれだけ助けられた



ことだろう。優れた家族看護実践(Center of Excellence)や研究方法(尺度開発など)のセッションに大勢の参加者が集まったことに、アカデミズムへの高い関心が伺えた。アジア9カ国の看護界のリーダー達の参加もありがたかった。つい最近まで内戦で苦しんだクロアチアからの出席も心を打ち、いつかその美しい国に行ってみたいと思いをさせた。

今度は、私たちが2013年米国・ミネアポリスで開催される学会を盛り上げる番である。力を合わせて支援したい。

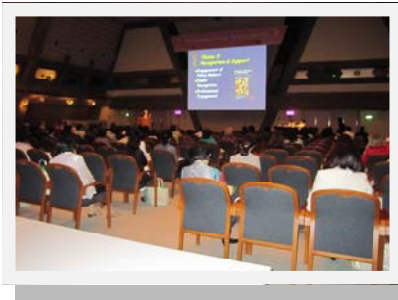
## 日本家族看護学会第18回学術集会を終えて

神戸大学大学院保健学研究科家族看護学分野  
(家族支援CNSコース) 法橋尚宏

日本家族看護学会第18回学術集会は、恒例の9月開催よりも約3ヶ月早めて、2011年6月25日(土)・26日(日)に国立京都国際会館において開催し、過去最多となる1,569名の参加者があり、盛会裡に終了いたしました。今回は、電子ポスター、ベストオーラル賞、ベストポスター賞、他学会連携ワークショップ、杉下知子先生メモリアルセッションなど、新しい企

画も試みました。詳細や会期中の様子は、ウェブページ(<http://www.familynursing.org/jarfn18/>)をご参照ください。なお、約60万円を東日本大震災関連に寄付させていただきました。関係各位の支援ご高配に深く感謝申し上げます。

## 国際家族看護学会 & 日本家族看護学会学術集会に参加して 高知大学医学部附属病院 星川理恵



6月下旬、国立京都国際会館にて第10回国際家族看護学会、あわせて第18回日本家族看護学会学術集会が開催されました。会場のスケールの大きさもさることながら、会場で行き交う人々にも世界観があふれ、普段見慣れぬ英文の研究報告のポスターは圧巻でした。各国の臨床家や研究者の方々の講演や研修に触れ、グローバルな視点から家族看護を捉え直す貴重な機会になりました。また、各国のエキスパートの方々の凛とした姿勢を垣間見て、「自分には、いったい何ができるだろうか」と未来に向かって思いを馳せたりしました。

日本家族看護学会学術集会では、市民参加型イベント「ナーシングサイエンスカフェ 中・高校生、大学生と家族看護を語り合う場」に参加しました。訪問看護師・保健師の方から、「病や障がいをかかえて生きる家族を支える看護その実際」をテーマに豊かな看護実践が語られました。事例は異なっていますが、その中核にはどれも『家族が主役。病や

障がいをかかえて生きていくのは家族。私たちは、その家族の歩みを支える。』という姿勢が貫かれているように私は感じました。その時々家族の心の揺らぎをあたたく包みながら、ともに歩む過程を大切にされ、家族の力の発揮を支えて最終的な家族の意思決定を尊重する看護実践を、生き生きと生の言葉で語られる様子は心に沁み入りました。中・高校生、大学生にとっても大きな刺激になったと思います。私も元気をもらいました。

今年、一度に二つの学会を楽しむことができる最高の年まわりでした。学会で得た貴重な体験や学びを今後活かしていきたいと思いません。企画・運営に関わられた皆様に心より感謝申し上げます。



## 国際家族看護学会を経験して

滋賀県立大学大学院人間看護研究科 馬場恵子

今回、私は初めて国際学会にポスターセッションの部で発表させていただく機会を得て、大変いい経験になったと思います。学会の準備段階では、日本語から、英訳へ変更する作業を通して、改めて普段使用している、医療用語の意味を考えることが出来ました。英語ではストレートに伝わる分、自分が何を表現したいのか考えました。そのことによって、研究テーマの考察が広がったと考えます。

会場は、国内の学会とはちがいで、華やかさがありました。直接海外の方と、ディスカッションすることは出来ませんでした。今回の学会は、良い刺激をたくさん受けました。



## 第10回国際家族看護学会に参加して

名古屋大学医学部保健学科 新家一輝

平成23年6月25日から27日にかけて、国立京都国際会館で

「Making Family Nursing Visible: From Knowledge Building to Knowledge Translation」を大会テーマとした第10回国際家族看護学会が開催されました。多くの方々が参加される中、東日本大震災で被災された渦中であって参加された方々や国外からお越しになられた多くの方々から力強いものと、その中であって歩み続ける家族看護学の意義深さに触れさせていただきました。

私は、Podium Oral Sessionにて研究発表させていただきました。セッションにご参加いただいた皆様より私たちの取り組みについて貴重な討議の場をいただき、よりよい看護のあり方と今後の研究・実践の方向性について思慮を深めることができました。また、今大会私は、企画運営委員会会場部会事務局として大会企画運営に携わらせていただきました。その中で、プログラムの組み立てと会場配置如何が、研究発表や

討議を通じた参加者の学びの質に直結していくことを実感し、企画運営の重要性と難しさについて体感させていただきました。私が大会当日会場責任者として常駐した会場では、連日とても有意義な発表討議が行われていました。しかし、比して参加者が非常に少なくとてももったいないと感じたのが素直な気持ちと反省です。

異文化における家族看護学のあり方やとらえ方に直接触れる貴重な経験をさせていただく中で、わが国において対象とさせていただく方々への家族看護学のあり方について考えることができたことから、海外の方々の取り組みに触れて行くことの大切さを肌で感じることができました。個人的にも大会開催前に増して家族看護学が”みえてきた”、というのはおこがましいしいのですが、さらに家族看護学に対する学びを深め自らの看護活動に生かしていきたいと感じました。

大変貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございました。

### 事務局

〒929-1210

石川県かほく市学園台1丁目1番地  
石川県立看護大学内

Tel/Fax

076(281)8374

E-mail

family\_chiba\_u\_2007@  
yahoo.co.jp

### ＝広報・渉外担当＝

泊祐子、浅野みどり、  
甘佐京子、古澤亜矢子、山本真実

ホームページもご覧ください。  
<http://square.umin.ac.jp/jarfm/>



### ＜編集後記＞

今回は、NEWS Letter5・6号合併号として、第10回国際家族看護学会および日本家族看護学会第18回学術集会についてお伝えいたしました。学会運営に関わられた先生方、参加された方々の記事を読むことで、私にとっても貴重な経験であったこの学会について、様々な視点から振り返ることができました。日々の取り組みのなかで、家族という視点からアプローチする重要性は実感しているものの、家族看護とは？と問われるとその特徴をどのように表現すればよいかと悩みます。家族看護の幅広さを考えながら、広報・渉外の活動などを通じ、学びを深めていきたいと思っております。（山本真実）